

岩手・宮城内陸地震

6月14日地震発生後直ちに宮城、福島から4頭6名が出動した。山間地での地震ということもあり、夜になっても行方不明者の人数、場所等の正確な情報把握ができない。温泉宿以外どこで行方不明になったのか特定できない。

翌15日朝の捜索会議で私たちも協力することになりレスキュー隊、警察、自衛隊とともに、僅かな情報のある周辺を探索したが、特定どころか、見当すらつかないほど広範囲、大規模に崩壊しており自然の恐ろしさを感じた。

捜索エリアには徒歩かヘリでしか入れず、余震で2次災害の危険性も出てきたため、発生から48時間を過ぎて集中的な救出作業は、駒ノ湯温泉、工事現場に絞られ、再度捜索活動を行う場合に備え、災害救助犬ネットワーク後続隊は待機することにして先発隊は撤収した。

新潟中越沖地震でもそうであったように、被災者にとって災害救助犬が期待されていることを実感したが、その期待に応えるためにも、今回の岩手・宮城内陸地震での教訓を、必ず次に生かさなければならない。

シンボルマーク

このマークは2007年11月一般募集を行い、会員による投票において決定されました。



■イメージコンセプト

地震や津波による倒壊家屋、雪山・山岳遭難等々、多発する多様な災害に対応するプロフェッショナルな災害救助犬組織をシンボリックにイメージされています。

■バリエーション



NPO法人災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

※上記のマークを使用した制服、ヘルメット、名刺、封筒、会員証、マグネットシール等の製作を行っていきます。

頒布品

車両用マグネット

在庫をなくすため受注毎に発注できるように交渉中です。

DVD映像

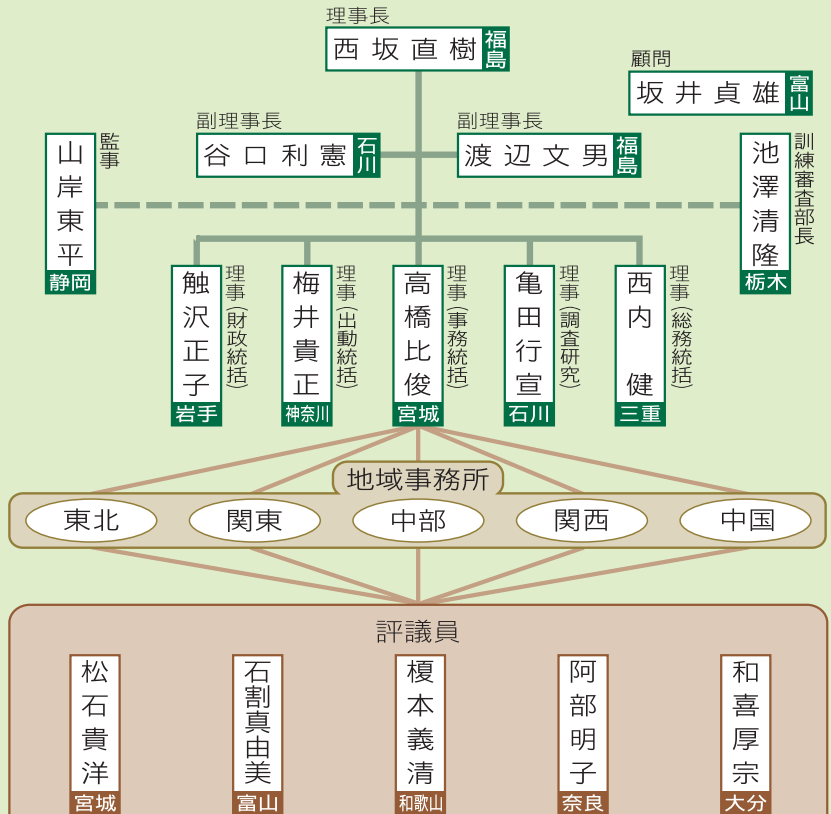
訓練会、防災訓練、デモ、認定会、テレビ映像等々の映像を訓練参考用として特別に実費で頒布します。

本誌の活動報告にDVD映像があるものはマークがついています。

制服・ヘルメット

出動時、防災訓練時に必要とされる制服・帽子・ヘルメットを頒布します。詳細はホームページに掲載します。

NPO法人災害救助犬ネットワーク組織図



編集後記

設立、認定審査会、NPO認証、訓練会と慌ただしかった初年度に発行できたのは皆さまの協力があってのことと感謝しています。より多くの方々に購読され、理解が深まる一助となれば幸いです。

いまはインターネットの普及で、こうした広報誌は速報性に乏しく、その効果には意見が分かれるところかも知れません。しかし、編集、発行の主旨は会員、災害救助犬関係者だけのためではなく、災害救助犬という存在すら知らない方々へ、一過性でないメッセージとして活用できればと思っています。また組織自ら、実績からの教訓として論議が深まればと期待しています。会員からその先への広報ツールとして活用いただき、活動、支援の輪が広がることを願っています。

広報・活動に関するご意見をお寄せ下さい。

会員

青森・岩手・山形・宮城・福島・栃木・茨城・千葉・東京・埼玉・神奈川・静岡
長野・富山・石川・愛知・三重・和歌山・奈良・京都・兵庫・広島・大分・77名

2008年7月20日現在